

宣言

私共は労働者なのだ。其日を細々と暮して居る労働者なのだ。然し少くとも無産者とか革命の闘士とか次の時代の支配者だとか、薄つべらな私共の心理を損んで誘惑する様な、嫌な響きの言葉を使はれる事は反つて有難迷惑だ。素より私共は生活の爲めに夏の日も冬の日も勞苦を厭はず働かざる。然し之は道樂に働いて居るのではない、眞剣其者なのだ。それでこそ其處に勞苦と共に平安があるのだ。

誰にせよ、かうした私共を玩具にするこゝだばはやめてくれ、はつきり御断り申度いのだ。

勿論私共だつて、今の社會に地位や財産のある人達が随分出鱈目や我儘をやつてゐる。其の利己的連中を見るとき腹も立つ憎くもなる思切つて厭にも觸る。然しそれは彼等の地位や財産が欲からではないのだ。彼等が自分自身を知らぬ憐れむべき一個の動物とは思ひながらも、彼等が彼等の任務を忘れて他人はさふなつてもよい自分さへよければ良い、他人の日本人全体の幸福は疎視しても自分さへ或は財産を得或は地位を得さへすればそれでよいのだと思ひ、國家の安寧は犠牲にしてまでも取つてやるので、それが我々日本人の發展を阻害し國家を滅亡に致すものだ。彼等はそれで居て常に國家主義者だと稱して居る。私共は其の根性が憎いのだ。

皇室や國家を犠牲にするのは此様な根性の奴なので反對に私共こそ貧乏はすれ地位はなけれ眞の愛國者なのだ。生れ乍の生一本の日本人なのだ。自然的日本主義なのだ。一朝非常の秋國家を百年の安きに置き得るものは其職業と其地位と其財産とを問はず生一本の日本人精神なのだ。理屈は抜きにして私共は唯日本人たる事を自覺して居るのだ。

此意味に於て私共は本當の國家主義者なのだ、國運を培する戦争の際に石の鐘詰で金儲する様な箱や、政黨と馴れ合つて不正行為を平氣でやる者や、政權を濫用して私利を計る政治家や、貪慾な地主や金持には、皆共通な非國家的、反日本主義的根性を有する奴があるから夫之等を排斥するのだ。

地位の高下や財産の有無を以て善惡を決するのでは無いのだ。其根性を惡むのだ。貪慾な西洋の資本主義根性、利己的な西洋の特權階級意識夫自体が惡いのだ。

私共は一方に於て此低級な野蠻的權力的資本主義を排斥すると同時に、同じ理由の下に破壊的な暴力的なとして結局利己唯物的な社會主義共產主義を排斥するのだ。而も夫が職業的共產主義者となつては問題は寧ろ滑稽に屬する。

西洋では資本主義か共產主義か其二つであるべきだ。勿論其中間を行く改良派や政策派の社會主義はある。近來は資本主義の美化作用をさへ唱へる者もある。乍然結局は資本主義と共產主義との對立で其物質的個人主義の立場から階級争闘の現象の生ずるの當然だ。西洋では夫が本筋だらうが、夫だから日本もさうなるべきで然すべしと云ふのは全く盲目的であると云ふの外はない。

そしてお互に光國の手先になつたり、露國の手先になつたりして低劣な拜金の社會主義や共產主義を宣傳されては私共日本人はたまつたものではない。彼等は御國のことなどはどうなつてもよい、自分等の利益にさへなれば外國の手先になつても平氣でなれるのだ。この

大正十五年四月

日本主義 勞農同志會

本部 濱松市利町二十七番地
假事務所 全 中澤町五八二番地

點に於ては我國の資本主義者と共產主義者と行道が違ふだけで其根性に至つては結局同じことだと云はねばならぬ。この意味で私共は共產主義者を惡むのだ。

私共は資本主義を排斥すると同時に、共產社會主義を排斥するが故に所謂無産者運動者の反省を促すのである。總ての労働者をして心的にも猶其曾さの存するを失はしめない様にして欲しい。低級に墮落せしめない様にして欲しい。労働者は勿論其生活の物質的條件の充實を欲する。乍然金さへ失つて職位的墮落はしない心算だ。少くとも心の光を有する。労働者よ汝は貧乏だから心の存在の價値なしと云ふならば、夫は西洋主義的資本家が奴隷を見ると同じことだ。労働者に對する甚しき侮辱でなければならぬ。共產社會主義者の言ふことを別の面から云ひ直せば、金持は金があるから強いと云ひながら労働者は貧乏だから偉くないんだと云ふ。さうするに結局金持が偉いんだと云ふことになる。大きな矛盾があるではないか。彼等の根性が之でも分るやうな氣がする。私共は貧乏こそすれ地位こそなければ一個の日本人としては存分の誇りを有するのである。資本主義者を憐れむべき下等動物とすれば、共產主義者も可哀さうな獸だ等しく心の光の尊さを知らぬ点では全く動物的思想と云はねばならぬ。

日本を見給へ、君等の様な西洋的主義者の爲めに今や日本は舶來の日本だ。流行に慍る馬鹿者共が舶來品を謳歌して居る裡に、思想的精神的舶來日本がうち立てられたのだ。私共の御國の姿を有のまゝに觀る時は、之が本當に私共の祖先が、遠き神代からの楮く平らかに、身も心もうち込めて、神のイノチ其のまゝの現として、私共に傳へられた「東ノ光サヤカ」な日本國なのだらうか。

私共は地位も財産もない労働者だが、唯生れ乍らの日本人だ。日本民族の血と歴史との尊嚴さ、日本民族のイノチの崇高さだけは存分に持つて居る。舶來日本をやめて、本當の日本に復古する事が私共の唯一の出來得る仕事であつて、私共は是非やらなければならぬことなのだ。私共の主張にある様な本當の日本にたち復らせるには、純眞な生れ乍らの日本人でなくては出來ない。農も工も老ひたるも若きも、男子も女子も相携へて私共の行かねばならぬ唯一の道を歩かうよ。

かうした趣旨で私共は日本主義に立脚した労働者団体を組織して私共の労働問題を解決すると同時に私共の主張を貫徹さし度い。私共は私共日本民族の有する重大なる使命の任務を知らなければならぬ。そして全民族は此使命を達成する爲めに協力一致しなければならぬ。夫がやがて私共の任務であると同時に全人類の幸福なのだ。そこで私共は何に從事し様とも、其能力と努力とを竭して此大使命達成に協力奮勵するのだ。鐵を持つことも車を挽くことも之が爲めであり、糸を紡むのも其爲めではなくてはならない。かくして労働は始めて神聖なりと言ふのである。

此崇高なる民族使命達成の爲めに、身も心をもうち込む所に私共日本人のイノチの尊さがあるのである。唯自分が食ふことの爲めにのみ働くものとすれば、貧富を分たす結局虫けらの生活と何等の差別を見出し得ないことを明に知つて置かねばならぬ。